

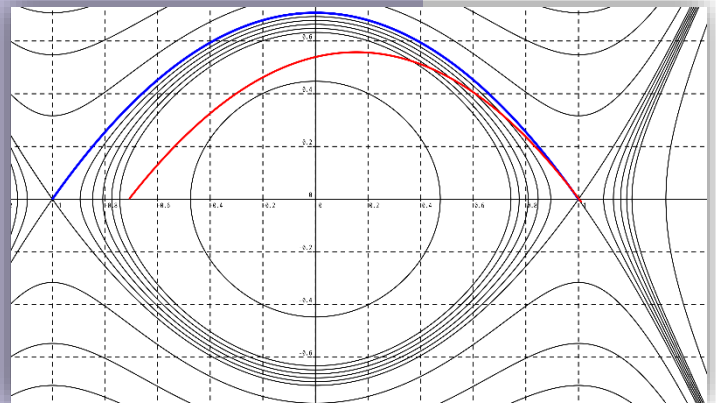
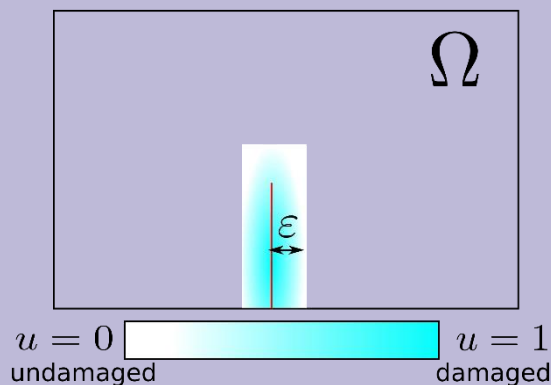
第28回

赤木 剛朗 氏

(東北大学大学院理学研究科数学専攻)

単調成長を拘束条件に持つ勾配系について

破壊現象などある種の状態変化には強い不可逆性(例えば一度損傷が生じてしまうと元には戻らない性質)が伴う。それらを相転移モデルによって捉える際、勾配系(自由エネルギーなど状態に対して値をとる(汎)関数がある時点で最も減少する方向へと状態が変化するような系)はその相変数の時間発展則に対する導出原理(広い意味での変分原理)となるが、それに強い不可逆性を拘束条件として課した問題は数学的には古典論の範疇を超え、さまざまな困難を伴うため、分かっていることは非常に限定的である。ここではそのような勾配系に対する単調成長の拘束条件の影響を知るべく、単純化されたモデルをとして拘束条件付き Allen-Cahn 方程式を中心に、近年数学的に分かってきたことについて解説する。

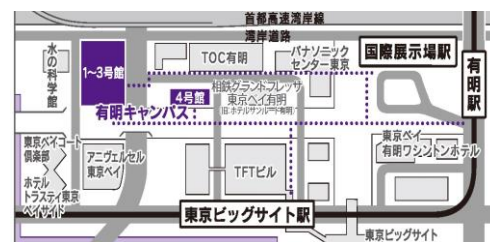


10月24日(木) 16:30-18:00

武蔵野大学有明キャンパス, 4号館 4階 403室

事前登録不要・参加無料: どなたでも自由にご参加いただけます。

りんかい線「国際展示場駅」徒歩7分



コーディネーター: 高石 武史 (武蔵野大学工学部数理工学科 教授)

問い合わせ先: 武蔵野大学数理工学センター

https://www.musashino-u.ac.jp/research/laboratory/mathematical_engineering/

世界の幸せをカタチにする。

Let's connect. let's create. let's share.

